

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成27年4月～令和3年3月（6年）

1. 計画期間終了時点の市街地の概況

守山市では、平成21年3月から平成27年3月までの6年間を計画期間とする「守山市中心市街地活性化基本計画」（以下、「前計画」とする。）の成果を活用し、まちづくりへの機運の高まりを継続させつつ、更なる発展および活性化を図るため、平成27年3月27日に内閣総理大臣から新たな基本計画（本計画）の認定を受けた。

『住み続けたいくなる“絆と活力ある共生都市”の創造』を基本理念に掲げ、「新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち」、「子どもから高齢者まで幅広い世代が誇りと愛着を持ち共生できるまち」、「地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち」の3つの目標を設定し、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、民間事業者等と行政を中心に、官民一体となって77の活性化事業に取り組んできた。

具体的に、ハード事業においては、「守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）」および「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」によって、JR守山駅前および守山銀座商店街に魅力ある商業施設を整備したことで、集客力の向上につなげ、本施設間をつなぐ動線には「前計画」整備の「中心市街地活性化交流プラザ（愛称：あまが池プラザ）」があり、子どもから高齢者まで幅広い世代の人がニーズにあったサービスを受けることができ、これらの施設を一体利用することで、交流の場となるなど、にぎわい創出の拠点としての役割を担った。

また、「守山市立図書館整備事業」により、守山市立図書館が再整備され、本施設において様々なイベントが開催されることで、多世代が文化や芸術に親しみ、ゆっくりと時間を過ごせ、憩える場が創出され、人が集う場所の核となった。

さらに、ソフト事業においては、民間が主体となった多くのイベントや事業が実施された。特にまちづくり会社と商店街が連携して実施した「陽の目を見るプロジェクト」では、食のイベントや体験型イベント、ゲームイベントなど多種多様なイベントが実施されたことで、多くの住民や来街者の参加が見られ、にぎわい創出に大きく寄与した。更に波及成果としては、商店街等において、継続して同様のイベントを実施していこうという気運が高まった。

これらをはじめとした各事業に取り組んだ結果、交流、集える、憩える場所やイベントが創出され、店舗の出店や居住人口の増加など中心市街地の活性化に繋がった。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

中心市街地 区域	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
人口	17,654	17,999	18,244	18,350	18,487	18,757	19,149
人口増減数	265	345	245	106	137	270	392
自然増減数	99	129	116	70	79	61	91
社会増減数	166	216	129	36	58	209	301
転入者数	1601	1,658	1,330	1,255	1,016	1,195	1,220

地価

(単位:円/㎡)

中心市街地	平成 26 年度 (計画前年度)	平成 27 年度 (1年目)	平成 28 年度 (2年目)	平成 29 年度 (3年目)	平成 30 年度 (4年目)	令和元年度 (5年目)	令和2年度 (6年目)
中心市街地 商業地平均	122,600	126,400	130,200	133,600	137,400	141,400	144,600
小島ビル① (勝部一丁目字三反長 232 番 5)	157,000	162,000	167,000	171,000	177,000	183,000	185,000
小島ビル② (勝部一丁目字三反長 232 番 5)	153,000	158,000	164,000	169,000	174,000	180,000	185,000
近江守山光ビル (浮気町字中ノ町 300 番 19)	108,000	111,000	114,000	117,000	120,000	123,000	127,000
下村ビル (守山二丁目南河水 27 番 2)	97,000	100,000	102,000	104,000	106,000	108,000	111,000
理容ホンダ (梅田町字上井田 98 番 6)	98,000	101,000	104,000	107,000	110,000	113,000	115,000
中心市街地 住宅地平均	102,333	105,000	107,667	110,667	113,333	116,000	118,333
今宿2丁目住宅地① (今宿二丁目字西浦 268 番地 39)	105,000	108,000	111,000	114,000	117,000	120,000	121,000
今宿2丁目住宅地② (今宿二丁目字西浦 268 番地 39)	103,000	106,000	109,000	112,000	115,000	118,000	121,000
守山4丁目住宅地 (守山四丁目南高田 1274 番 1)	99,000	101,000	103,000	106,000	108,000	110,000	113,000

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地は活性化したか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
 ② 若干の活性化が図られた
 ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
 ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は概ね遅滞なく実施できており、全 77 事業のうち、21 事業が完了、56 事業が着手済み又は継続実施中で、継続実施中の3事業については、計画終了後も引き続き取り組んでいく予定である。

■市街地整備関連

市街地の整備改善のため予定していた11事業全てに着手し、全事業において順調に進捗した。特に、回遊しなくなる都市基盤として、「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」にて、老朽化から耐震性がなかった守山銀座ビルを建て直し、安全で魅力ある施設に再整備した。また、併せて施設周辺の整備を行い、安心して歩ける快適な歩行空間の確保、道路のバリアフリー化、通学路の安全性向上を推進した。

■都市福利施設整備関連

予定していた 13 事業全てに着手し、全事業において順調に進捗した。特に、「守山市立図書館整備事業」により、文化・芸術の拠点として集客の核となる場が創出されたと共に、多世代の交流が促進されている。

■居住環境の向上関連

予定していた 13 事業全てに着手し、全事業において順調に進捗した。特に、本市においては中山道守山宿の歴史的景観保全事業を展開しており、中山道の街並みに合致した修景整備に対する助成申請が民間から5件寄せられた。

居住環境の向上に向けた取り組みが住民主体となり進められている。

■商業の活性化関連

現在、建て替え等に向けて検討を進めている守山駅前のサードプレイス事業(美賀未来ビル建て替え事業)と平和堂守山店の建て替え事業以外の 36 事業全てに着手済みであり、順調に進捗している。特に、「守山駅前の顔づくり事業(近江鉄道ビル建て替え事業)」や「セルバ守山1・2階活性化事業」、「空店舗対策事業」によって、JR守山駅前を中心に商業機能が強化され、訪れたいくなる環境の創出が推進された。また、まちづくり会社および商店街等の民間が主体となって実施しているイベント等のソフト事業が定着し、にぎわいが創出された。これらのソフト事業のうち、多数の事業は、今後も継続して実施していく予定である。

活性化の実現に向けては、ハード施策とソフト施策の両方を講じる事が効果的である。守山市の中心市街地活性化基本計画では、市が事業主体となった賑わいの場を創出するハード事業が目玉であったが、これに合わせて民間が事業主体となったソフト事業が行われたことで、官民一体となった活性化が図られた要因として挙げられる。

また、その過程においては、市民の関心が高いことや市長との対話(どこでも市長室)、市議会での議論等による熟度の高まり等の影響によって、各種事業の合意形成が円滑に図られたものと考えられる。

地域コミュニティの醸成やにぎわいの創出につながる

100 円商店街やバル・得する街のゼミナール等、(株)みらいもりやま21(まちづくり会社)や商工会議所が中心となって事業者間の連携が強化されイベントが増加したことによって、地域コミュニティの醸成やにぎわいの創出につながっている。

「あまが池プラザ」は子育て世代の情報交換・憩いの場となる

中心市街地活性化交流プラザ(愛称:あまが池プラザ)は近隣市民の利用も多く、守山市の周辺都市を含めたエリアの交流の場となっている。また、教育施設(小学校・幼稚園・保育園)や緑地公園に隣接しているため、特に子育て世代の母親達の情報交換・憩いの拠点となっている。

「守山宿・町家“うの家”」は、地域コミュニティの強化に寄与

歴史文化まちづくり館(愛称:守山宿・町家“うの家”)では、歴史・文化の情報発信・物産販売以外にも、結婚式や地域の行事等にも利用されており、地域コミュニティの強化にも寄与している。

水辺遊歩道ネットワーク整備により回遊性向上や歩行者・自転車通行量が増加

水辺遊歩道ネットワーク整備に合わせて、あまが池親水緑地を始めとする休憩できる場所を提供したことによって、回遊性の向上や歩行者自転車通行量の増加につながっている。

道路の美装化、沿道建築物の修景整備も寄与

道路の美装化(カラー舗装、無電柱化)や歩行者支援施設(案内路面表示、ベンチ設置)に加えて沿道建築物の修景整備を進め、歴史回廊ネットワークの形成を進めたことによって、歩きたくなる環境が高まり回遊性の向上や歩行者自転車通行量の増加につながっている。

中活区域内での民間事業の活発化

多種多様な活性化事業を実施した結果、中心市街地の魅力が高まりまちの環境が向上したことにより、施設の建て替え・リニューアル時期を迎えた民間企業が転出せずに、中心市街地内での更新が活発化している。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

守山市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地の活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業は概ね順調に実施されたと考える。

中心市街地内において、近江鉄道ビルの建替え、火祭り交流館の整備等の民間事業、守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業等による新たな賑わい拠点が生み出されると共に、市立図書館改修事業等の文化拠点施設が整備され、それら施設を拠点として利用した、株式会社みらいもりやま 21 等民間事業所が主導する継続的なイベントの取り組みによりまちなかに賑わいを創出した結果、評価指標に基づく数値目標の3つの内、2つの数値「新規出店店舗数」、「福祉・文化・交流施設の利用者数」が目標値を上回った。

また、一方で、「歩行者・自転車通行量(平日)」は3年連続増加したものの目標数値は下回った。これはコロナ禍であったことが要因としてあげられるが、調査地点の内、守山銀座通りや旧中山道などの地点では歩行者・自転車通行量は増加しており、計画目標「地位資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち」は一定達成できたと考える。

市民アンケートからは「12年前より(かなり、または若干)活性化が図られた」との回答が合わせて73.6%という結果がでており、今後もまちづくりへの機運の高まりを絶やすことなく、中心市街地活性化基本計画で盛り上げられたJR守山駅周辺を中心としたエリアの活性化を継続的に取り組み、「魅力的で持続可能なまちづくり」「将来的な課題を見据えたまちづくり」を引き続き官民一体となって取り組んでいく必要がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化した)

【詳細を記載】

■守山市中心市街地活性化基本計画 効果検証のための市民意識調査

調査の概要

調査名称:守山市中心市街地における市民意識調査

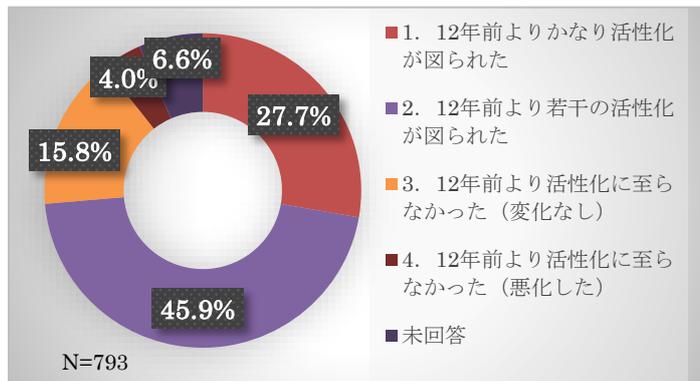
調査期間:令和3年1月16日～2月28日

調査方法:市民2,000人を無作為抽出し、郵送によるアンケート配布、回収

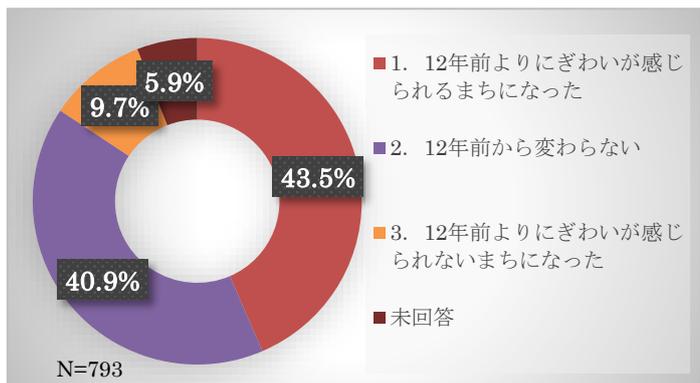
配布数:2,000票(市域全域から2,000人を抽出)、回収数:793票、回収率:39.7%

《「中心市街地における活性化の状況について」》

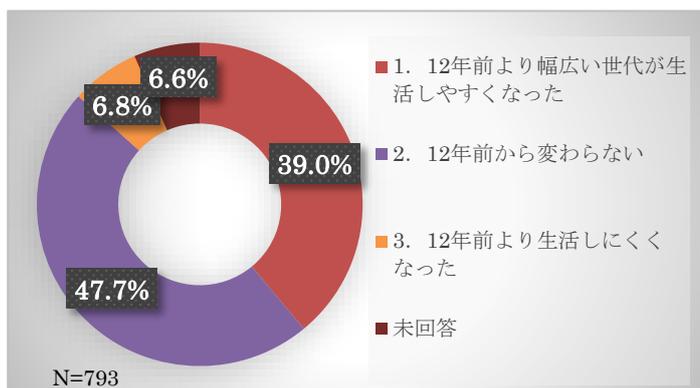
「12年前よりかなり活性化が図られた」および「12年前より若干の活性化が図られた」の回答者を合わせると7割強の者が計画策定時に比べて中心市街地が活性化したと感じている。「悪化した」との回答は少数であった。



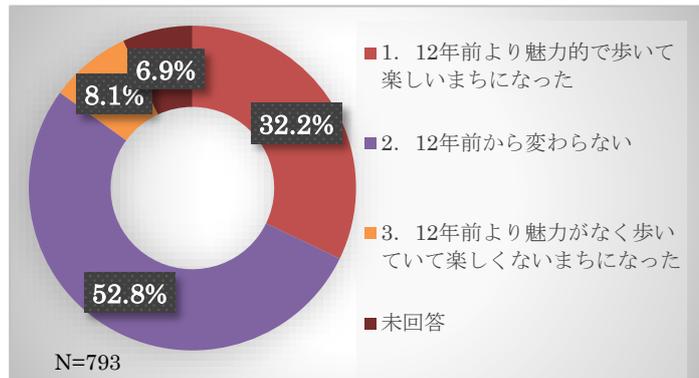
中心市街地活性化の目標1「新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち」に関しては、「12年前よりにぎわいが感じられるまちになった」との回答が43.5%と最も多く、次いで「12年前から変わらない」が40.9%となっている。



一方、目標2「子どもから高齢者まで幅広い世代が共生できるまち」に関しては、「12年前から変わらない」との回答が47.7%と最も多く、次いで、「12年前より幅広い世代が生活しやすくなった」との回答が39.0%となっている。



最後に、目標3「住民参加により地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しいまち」に関する、「12年前から変わらない」との回答が52.8%と最も多く、次いで「12年前より魅力的で歩いて楽しいまちになった」との回答が32.2%となっている。



中心市街地活性化の実施効果に関する市民意識調査について、1期計画の最終フォローアップ時（平成27年3月）と比較すると、活性化の状況については、「かなり活性化が図られた」との回答割合が2倍以上となっており、活性化の効果が感じられるものと捉えられる。

6. 今後の取組

第2期守山中心市街地活性化基本計画において、「継続実施」事業の「完了とみなせるもの」も含めて今後も取り組みを継続するが、とりわけ、「平和堂守山店建て替え事業」、「守山駅前のサードプレイス事業」の「継続中」であるもの、加えて特に今後重点的に取り組み必要のある「守山の顔づくり」としての渋滞対策、および商店街の活性化等については、今後も推進することが重要である。

今後の中心市街地については、第3期の中心市街地活性化基本計画の策定を行わずとも、中心市街地エリアのにぎわい創出や、歩いて楽しいまちづくり、商店街活性化等の取り組みは必要であり、引き続き、地元自治会、地元住民、商店街、まちづくり会社、商工会議所等と連携し、エリア全体の魅力を高め、人の流れと活気を生み出す施策を推進する必要がある。

中心市街地活性化協議会において、「既存の民間団体や各商店街の動きを止めることなく、情報発信等を含めこれまでの民間主導による取り組みを継続していくべきである」とのご意見をいただき、さらに守山市全体の均衡のとれた発展を目指すとともに、市独自の取り組み方針を定め、守山駅周辺の活性化に向けた事業を推進していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値 80%	最新値		達成 状況
					(数値)	(年月)	
新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち	新規出店 店舗数	7店舗/年 (H25)	35 店舗 (累計)	29 店舗 (累計)	89 店舗 (累計)	R3.3	A
こどもから高齢者まで幅広い世代が誇りと愛着を持ち共生できるまち	中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数	466,854 人 /年 (H25)	507,000 人/年 (R2)	498,970 人/年 (R2)	543,816 人/年	R3.3	A
地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち	歩行者・自転車通行量(平日)	15,742 人/日 (H25)	16,200 人/日 (R2)	16,108 人/日 (R2)	15,027 人/日	R2.11	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい)

A(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

C(計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c(計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

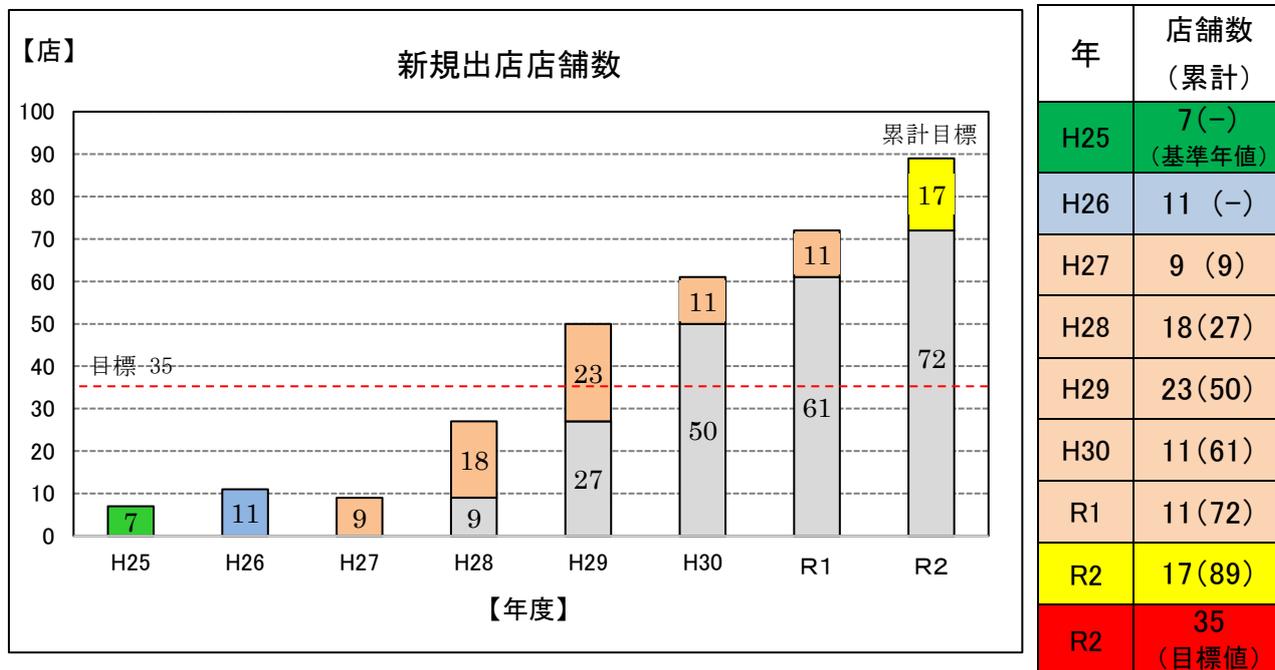
2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

目標「新たなサービスにより、にぎわいが感じられるまち」

「新規出店店舗数」（目標の達成状況【A】）

※目標値設定の考え方基本計画 P.72～P.73 参照

●調査結果と分析



●:基本計画認定前の値 ●:基準年値 ●:基本計画中の値 ●:最新値 ●:目標値

※調査方法：現地踏査

※調査月：年間を通じて都度調査

※調査主体：守山市

※調査対象：中心市街地内の新規出店店舗

〈分析内容〉

目標指標については、目標値累計 35 に対して、令和 2 年度の実績値は 89 となり大幅に目標数値を上回る結果となった。「新規出店店舗数」の増加にむけた各事業については、おおむね予定どおり完了した。

目標達成に向けた主要事業である、①「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」と②「守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）」が完了したことと、まちづくり会社である株式会社みらいもりやま 2 1 が中心となり、③「セルバ守山 1・2 階活性化事業」やまちなかの④「空き店舗対策事業」が概ね順調に進捗したことで、目標値（累計 35 店舗）を大幅に上回り、目標を達成した（累計 89 店舗）。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業（守山銀座ビル市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	建築から 50 年が経過し、老朽化が進んでいる銀座商店街東西ビルの建て替えを行い、商業施設の魅力や利便性また道路機能を向上させるこ

	とにより、集客力の向上やにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 【国土交通省】（平成 27 年度～令和 2 年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値（当初（平成 25 年度）見込み）：5 店舗新規出店/6 年 最新値：10 店舗新規出店/6 年 【目標達成】
達成した（出来なかった）理由	事業が完了し、守山銀座ビル東棟においては 7 店舗、守山銀座ビル西棟においては 3 店舗が開業した。
計画終了後の状況（事業効果）	商業機能が強化され、多様なニーズに対応できる施設に整備されたと共に、ヘルスケアを核とした地域商業活性化事業～Total health care solution～の実施に伴い、健康をコンセプトにしたイベント等が開催され、多世代が交流できる拠点となった。
事業の今後について	守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業により整備された守山銀座ビル東棟および西棟の集客力を維持していくため、健康イベント等を開催し、来訪を促し、商店街を周遊していく取り組みを進める。

②. 守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）（近江鉄道株式会社）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	守山駅前広場に隣接する近江鉄道ビルにおいて、魅力ある商業施設を整備し、集客力の向上やにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値（当初（平成 25 年度）見込み）：8 店舗新規出店 最新値：8 店舗新規出店 【目標達成】
達成した（出来なかった）理由	事業が予定通り完了し、ホテルや飲食店、スポーツクラブなどの計 8 店舗が新たに開業した。
計画終了後の状況（事業効果）	近江鉄道ビルのリニューアルにより、駅前の商業機能が強化されたと共に、ホテルをはじめとした新規出店によって、市外からの利用者も増加した。
事業の今後について	事業を完了している。

③. セルバ守山 1・2 階活性化事業（セルバ守山管理組合）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	守山駅から直接アクセスできる立地を活かし、リニューアルした地下商業施設の効果を活かしながら、訪れたい環境を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値（当初（平成 25 年度）見込み）：12 店舗新規出店/6 年 最新値：9 店舗新規出店/6 年 【目標未達成】
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社としてのネットワークを活かし活性化事業を進めたが、近隣に「守山銀座ビル」、「近江鉄道ビル」がリニューアルされ、商業施設が相次いで出店したため、当該ビルにおいては賃料等の兼ね合いから目標数には達成しなかった。

計画終了後の状況 (事業効果)	区分所有により有効的に空き店舗が活用されていないなか、まちづくり会社が区分の配置替えとテナントリーシングに関わり、平成 26 年度以降順調にテナント進出が進んだ。6 年間で 9 店舗が出店を果たしており、一定のにぎわい創出が図られた。
事業の今後について	現在、3 区画分の空区画があり、引き続き店舗誘致を進めている。本建物の地下にて集客を促すイベントを開催する。

④. 空店舗対策事業（株式会社みらいもりやま 2 1）

事業実施期間	平成 21 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	中心市街地における空店舗の解消に向け、市民ニーズを踏まえ、魅力ある店舗を誘致しにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値（当初（平成 25 年度）見込み）：10 店舗新規出店/6 年 最新値：16 店舗新規出店/6 年 【目標達成】
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社としての実績から、株式会社みらいもりやま 2 1 の認知度・信用度は高まったことや、まちづくり会社としてのネットワークを活かし店舗誘致を進めることができ、目標であった毎年 2 店舗の出店が達成できた。
計画終了後の状況 (事業効果)	カフェや居酒屋の出店により、若者を中心に幅広い年齢層から親しまれ、中心市街地活性化に大きく貢献している。
事業の今後について	今後も引き続き、空店舗や低未利用地の活用について積極的に取り組み、中心市街地のにぎわい創出を図る。

●今後の対策

「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」と「守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）」が完了し、店舗のリニューアルや新店舗が開業したことに伴い、駅前から銀座商店街にかけて商業機能が強化した。これらの施設の集客力を維持するため、各店舗や周囲の多店舗との連携を図りながら、持続的に多世代のニーズに応じたサービスを提供できるよう積極的に活動し、にぎわい創出の拠点としての魅力をさらに高める。

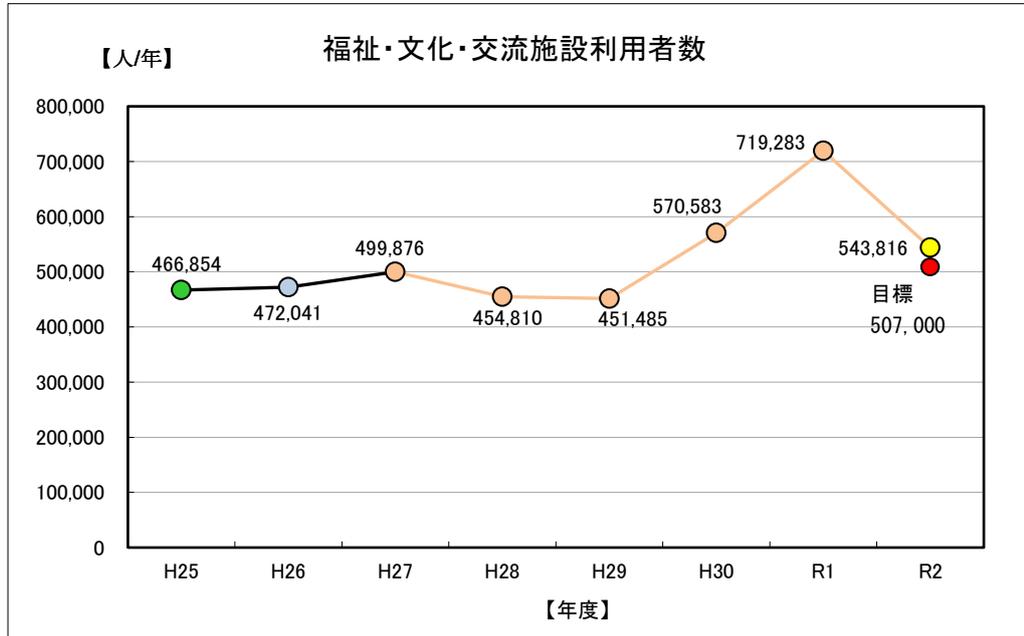
また、計画期間終了後も引き続き、株式会社みらいもりやま 2 1 のネットワークを活かし、積極的に空店舗に対してテナントリーシングに取り組むことで、「商業面での活性化」を図る。

目標「子どもから高齢者まで幅広い世代が誇りと愛着を持ち共生できるまち」

「中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数」（目標の達成状況【A】）

※目標値設定の考え方基本計画 P.74～P.76 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
H25	466,854 (基準年値)
H26	472,041
H27	499,876
H28	454,810
H29	451,485
H30	570,583
R1	719,283
R2	543,816
R2	507,000 (目標値)

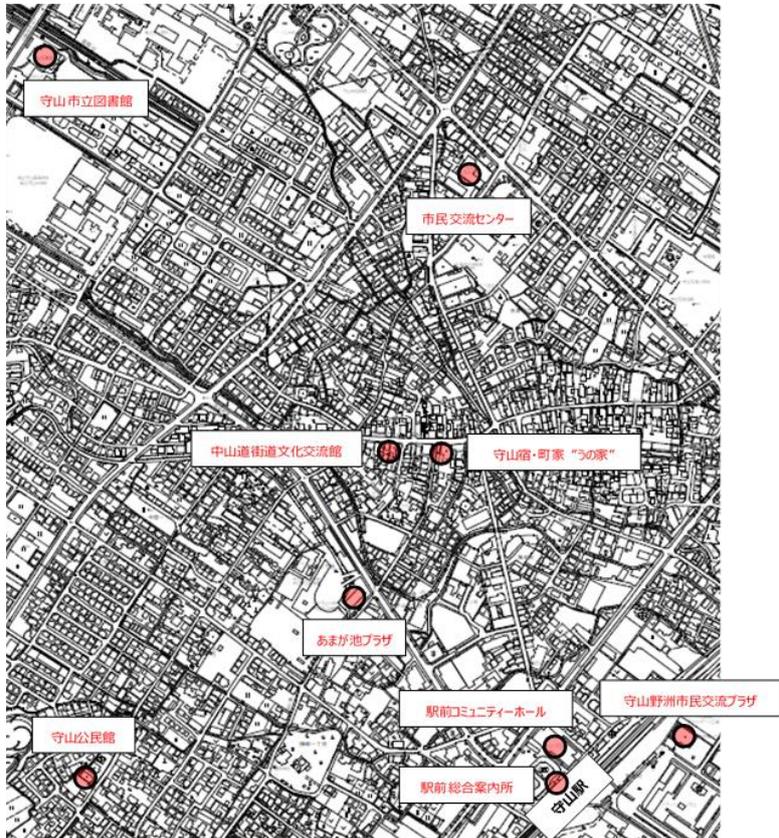
●:基本計画認定前の値 ●:基準年値 ●:基本計画中の値 ●:最新値 ●:目標値

※調査方法:調査対象施設の利用者調査

※調査月:施設開館日は毎日実施、年度末取りまとめ

※調査主体:各調査対象施設管理者

※調査対象:守山公民館、駅前総合案内所、駅前コミュニティホール、市民交流センター、あまが池プラザ、守山宿・町家“うの家”、中山道街道文化交流館、守山市立図書館、守山野洲市民交流プラザ



〈分析内容〉

目標指標については、目標値累計 507,000 に対して、令和2年度の実績値は 543,816 となり大幅に目標数値を上回る結果となった。「中心市街地内の福祉・文化・交流施設」の利用者数増加にむけた各事業については、予定どおり実施した。

目標達成に向けた主要事業である①「守山市立図書館整備事業」が予定通り完了し、②「守山野洲市民交流プラザ福祉文化事業」、③「中心市街地に向けた様々な取り組み」による、コンサートやマルシェ等のイベントや教室・講座などを継続的に実施した結果、認知度が向上し市民に定着してきた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の一時的な閉館や、イベントの中止、規模縮小などで、指標結果に影響が見られたが、目標値(507,000 人/年)を上回り、目標を達成した(543,816 人/年)。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 守山市立図書館整備事業(守山市)

事業実施期間	平成 25 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	文化・芸術の拠点として多世代の利用が活発になると共に、文化芸術交流の質的向上が図れるよう、図書館の再整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業 【総務省】(平成 30 年度) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 【国土交通省】(平成 25 年度～平成 29 年度) 地方創生拠点整備交付金 【内閣府】(平成 28 年度～平成 30 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成 25 年度)見込み): 262,200 人/年 最新値: 356,498 人/年 【目標達成】 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月17日から令和2年5月15日まで臨時休館。 ※リニューアルオープンした平成 30 年度(293,507 人/年)時点で目標を達成し、令和元年度(446,565 人/年)で目標値を大きく上回った。
達成した(出来なかった)理由	事業が予定通り完了し、多くの住民が利用したくなる施設となったことで、施設利用者数が大幅に増加した。
計画終了後の状況(事業効果)	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、上記のとおり休館。その影響で利用者数が伸び悩む期間もあったが、リニューアルオープン以降、幅広い世代に利用され、開催される様々なイベントも好評を得ており、利用者数が増加している。
事業の今後について	上記の効果を活かしながら、来館者数の定着や更なる新規来館者の開拓等に向けた取り組みの継続的な検討・実行を図る。

②. 守山野洲市民交流プラザ福祉文化事業(一財 守山野洲市民交流プラザ)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	守山野洲市民交流プラザの福祉文化事業の充実を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成25年度)見込み):150人/年の増加 最新値:761人/年の減少 【目標未達成】
達成した(出来なかった)理由	事業が予定通り完了し、多くの住民が利用したくなる施設となったが新型コロナの影響で、施設利用者数は減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	基準年の平成25年度に比べ、本年度の当該事業の利用者数は761人減の1,015人であった。これは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントの開催数や参加人数の減少が要因であると考えられるが、平成27年度から令和元年度までの利用者数は平均1,913人/年であり、基準値年度から137人/年上回っていることから、定期的に行われるコンサート等が市民にも広く定着してきた成果と思われる。今後も内容の充実や周知を広める等工夫を凝らし、利用者の増加を目指す。
事業の今後について	上記のとおり、利用者数は平均で基準値年度から137人上回っている。目標150人/年の利用者増加を達成するために、市民教養講座やコンサート、親子教室等の福祉・文化に関連する講座等の内容の充実や周知方法の工夫に取り組む。

③. 中心市街地活性化に向けた様々な取り組みによる利用者の増加(市・商工会議所他)

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	取り組み内容の充実により主要施設の利用者の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成25年度)見込み):15,440人/年の増加 最新値:33,791人/年の減少 【目標未達成】
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、イベントや事業が中止となり利用者数が減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予定していた事業やイベントが立て続けに中止となり、ほとんどの施設が基準年の利用者数を下回る結果となったが、平成27年度から令和元年度までの利用者数は平均176,983人/年であり、基準値年度から22,805人/年上回っていることから、各施設にてそれぞれの特性を活かしながら幅広い世代や用途に貸室が利用され、多くの市民活動を促進してきた成果と考える。今後も認知度を高め、利用者の増加につなげていく。
事業の今後について	各施設利用者数の増減傾向はまちまちであり、施設や年度によって傾向が異なっている。そのため、それぞれの増減の要因を明確にした上で、効果的な取り組み内容やマイナス要因の解消等に向けた継続的な検討・実行により賑わい創出を図る。

●今後の対策

平成 28 年度～令和元年度まで毎年順調に推移したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に利用者数が減少する結果となった。今後も、イベント開催のあり方や利用者に安心して参加してもらえる三密対策等を考え実施し続け、コロナ禍明けも一定の利用者を確保していけるようにする。

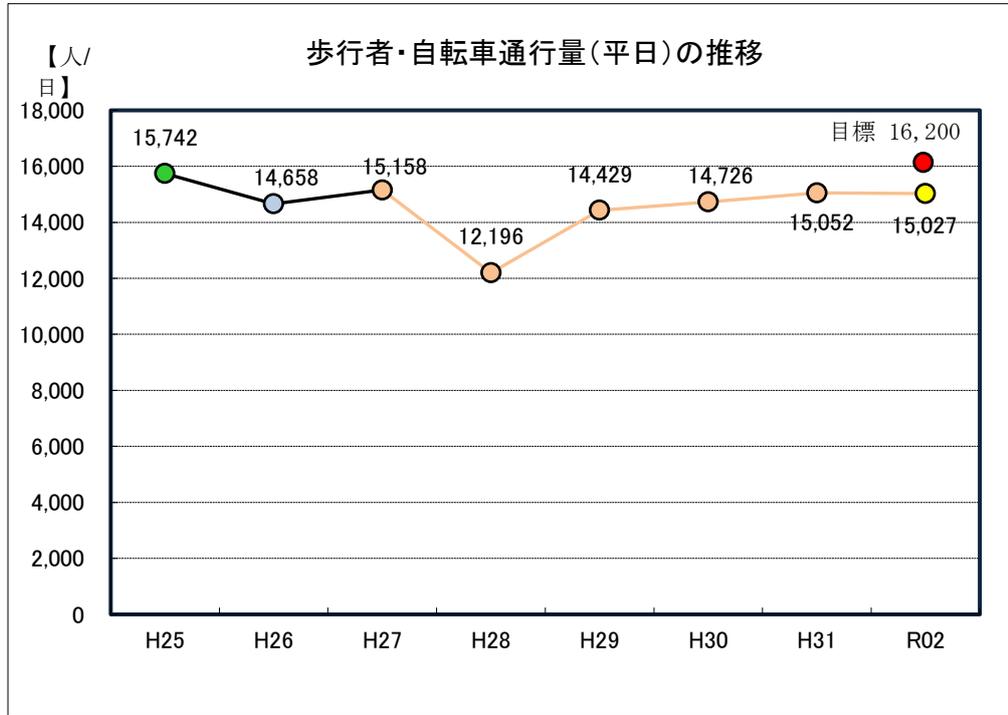
①「守山市立図書館整備事業」により、平成 30 年 11 月にリニューアルオープンしたことで、幅広い世代が集える場となり、想定を大きく上回る利用者数が続いている。また、様々なイベントが開催されており、好評を得ている。今後も、来館者数の定着や更なる新規来館者の開拓を図るため、引き続き図書館サービスの充実検討を行っていく。

目標「地域資源を活かし、魅力的で歩いて楽しく回遊できるまち」

「歩行者・自転車通行量(平日)」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方基本計画 P.77~P.81 参照

●調査結果と分析



年	(人/日)
H25	15,742 (基準年値)
H26	14,658
H27	15,158
H28	12,196
H29	14,429
H30	14,726
R1	15,052
R2	15,027
R2	16,200 (目標値)

●:基本計画認定前の値 ●:基準年値 ●:基本計画中の値 ●:最新値 ●:目標値

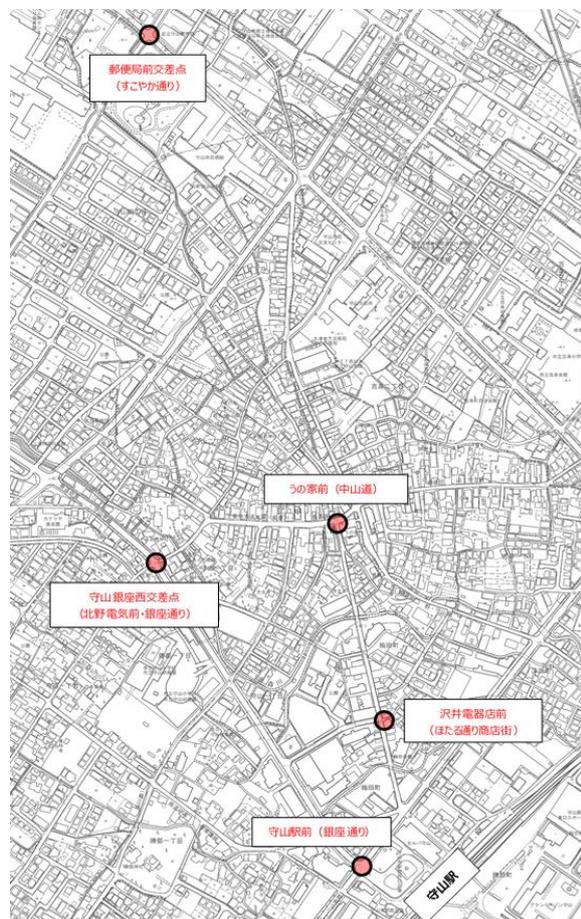
※調査方法:歩行者・自転車通行量(平日)調査

※調査月:毎年度10月下旬~11月上旬の平日

※調査主体:守山市

※調査対象:歩行者及び自転車通行者、平日5地点

- ・守山銀座西交差点(北野電気前・銀座通り)
- ・うの家前(中山道)
- ・沢井電器店前(ほたる通り商店街)
- ・郵便局前交差点(すこやか通り)
- ・守山駅前(銀座通り)



〈分析内容〉

目標指標については、目標値累計 16,200 の実績値は 15,027 となり目標数値を下回る結果となった。「歩行者・自転車通行量(平日)」の増加にむけた各事業については、おおむね予定どおり完了した。

中心市街地内の福祉・文化・交流施設の利用者数が増加傾向である一方で、歩行者・自転車通行量は昨年度より微減し、基準年度 15,742 人/日に対して 15,027 人/日と基準値を下回っている。これは、新型コロナの影響でイベント等が中止になり各施設に来訪する機会が減少したことや、不要不急の外出を自粛する期間が長く中心市街地を歩いて楽しむ機会が大幅に減少したこと、また、「平和堂守山店建て替え事業」が社会情勢などの影響により実施に至っていないことが基準値を下回っている要因であると考えられる。

駅前地点では「守山駅前の顔づくり事業（近江鉄道ビル建て替え事業）」さらに「守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業」により、新たな商業施設がオープンしたものの、4,789 人/日（基準年値 5,435 人/日）と基準年値を下回ったが、「陽の目を見るプロジェクト」等のソフト事業を展開したほたる通りでは、基準年値 2,331 人/日に対して 2,438 人/日となっており、事業実施の効果が顕著に現れている。また、本計画から追加した医療集積ゾーン（すこやか通り郵便局前）において、高度専門医療の提供と全県型医療の展開に向けた機能強化を図るために、滋賀県立総合病院において改築（平成 28 年 11 月）が完了したが、基準年値（3,354 人/日）と比較して 2,677 人/日と大きく下回る結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 守山銀座ビル地区第一種市街地再開発事業(守山銀座ビル市街地再開発組合)【再掲】

事業実施期間	平成 27 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	建築から 50 年が経過し、老朽化が進んでいる銀座商店街東西ビルの建て替えを行い、商業施設の魅力や利便性また道路機能を向上させることにより、集客力の向上や賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業) 【国土交通省】(平成 27 年度～)
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成 25 年度)見込み): 123 人/日の増加 最新値: 3,999 人/日(基準年度比 287 人/日の増加) 【目標達成】 計測位置: 守山銀座西交差点 
達成した(出来なかった)理由	事業が完了し、守山銀座ビル東棟においては 7 店舗、守山銀座ビル西棟においては 3 店舗が開業し、集客を集めた。
計画終了後の状況	商業機能が強化され、多様なニーズに対応できる施設に整備されたと

(事業効果)	共に、ヘルスケアを核とした地域商業活性化事業～Total health care solution～の実施に伴い、健康をコンセプトにしたイベント等が開催され、多世代が交流できる拠点となった。
事業の今後について	令和2年5月の守山銀座ビル東棟の飲食店等の開業により、居住者の増加と飲食店等の商業機能のリニューアルによる来客の増加に加え、「健康」をコンセプトにした多世代交流拠点を有する守山銀座ビル西棟と一体となることで、更なるにぎわいを創出し、回遊性の向上を目指す。

②. 守山駅前の顔づくり事業(近江鉄道ビル建て替え事業)(近江鉄道株)【再掲】

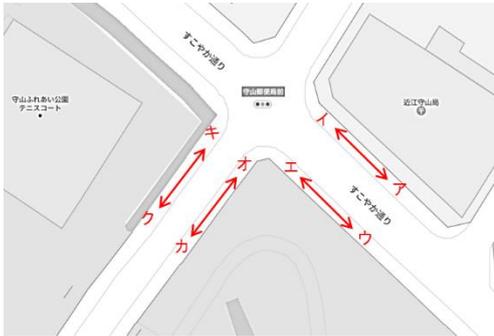
事業実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	守山駅前広場に隣接する近江鉄道ビルにおいて、魅力ある商業施設を整備し、集客力の向上やにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成 25 年度)見込み):141 人/日の増加 最新値:4789 人/日(基準年度比△646 人/日) 【目標未達成】 計測位置:守山駅前交差点北 
達成した(出来なかった)理由	建て替えは完了し、事業は達成した。しかし令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、歩行者数は目標値に達しなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	商業機能が強化され、多様なニーズに対応できる施設に整備された。駅前に立地しており、スポーツジム施設を整備していることから、遠方からの来訪も期待でき、集客力向上につながる。
事業の今後について	令和元年度から「守山ほたるパーク&ウォーク」のインフォメーションブースを設置した。駅前の他店舗とも連携を図りながら、憩いの空間・にぎわい創出に向けて積極的に活動を拡大する。

③. 平和堂守山店建て替え事業(株平和堂)

事業実施期間	平成 24 年度～【未】
事業概要	中心市街地の中央部に位置する平和堂守山店の建て替えにより、居住者や来街者の買い物利便性を高め、回遊性と集客力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし [認定計画:地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金(中心市街地

	再興戦略事業)【経済産業省】(予定)]
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成25年度)見込み):14人/日の増加 最新値:事業未実施 【目標未達成】
達成した(出来なかった)理由	事業者において、建替えについて検討されているが、社会情勢などの影響により実施に至っていない。
計画終了後の状況(事業効果)	事業者において、建替えについて検討されているが、事業者の事情もあり実施に至っていない。
事業の今後について	今後も、実施される際には、エリア居住者や来街者の買物利便性を高めるとともに、回遊性や集客力向上によりまちなかの活性化に寄与されるよう、引き続き働きかけを行う。

④. 滋賀県立成人病センター機能強化等の「健康・予防医学の取り組み」による増加(滋賀県・守山市・民間事業者 等)

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	既存の滋賀県立総合病院の改築および聴覚・コミュニケーション医療センター構想の推進に合わせ、当該施設の周辺に位置する施設と連携を図りながら「健康・予防医学の取り組み」を進める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置無し
目標値・最新値及び達成状況	目標値(当初(平成25年度)見込み):200人/日の増加 最新値:2677人/日(基準年度比△667人/日) 【目標未達成】 計測位置:郵便局前交差点
	
達成した(出来なかった)理由	改築は完了し、事業は達成した。しかし令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、歩行者数は目標値に達しなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	滋賀県立総合病院では、高度専門医療の提供と全県型医療の展開に向けた機能強化を図るために、新病棟の建設が平成26年度より進められ、平成28年11月に改築が完了した。 また、行政や教育文化施設、民間事業者等が連携を図り、「健康・予防医学」をテーマとしたソフト事業に取り組んでいる。具体的には、平成26・27年度には、あまが池親水緑地においてオーガニックビアガーデンパーティが定期的開催されたり、平成30年度からはココカラFesが開催されたりと、にぎわいの創出を図るとともに、健康・予防医学に関する

	<p>情報発信や出店により市民の健康への関心を高めている。</p> <p>※平成 30 年1月1日より「滋賀県立成人病センター」から「滋賀県立総合病院」に名称が変更</p>
事業の今後について	<p>今後も各文化施設での「健康・予防医学」をテーマとしたソフト事業や、守山銀座ビルの守山銀座ビル西棟と守山銀座ビル東棟(令和2年5月に多数店舗が開業予定)が一体となり「健康」をコンセプトにした取り組みを継続して実施していく。</p>

●今後の対策

主要事業は概ね完了したが、数値の増加には繋がらず目標達成には至らなかった。その要因は、分析内容にもあるように新型コロナウイルス感染症が拡大したこと、社会情勢などの影響で未実施の事業があることが考えられる。今後は、新型コロナウイルスの感染状況に合わせて必要な対策を検討、実施する中で、中心市街地が多世代の憩いの空間となるよう、さらなるにぎわいを創出し、回遊性の向上を目指す。また、周辺の目田川の河川環境の改善、県立総合病院の機能強化、市立図書館（平成30年11月開館）等との連携を高める等の対策を講じていく。